

# 経営学部経営学科 企業経営専攻

## 1. 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)

経営学科企業経営専攻は、学生一人ひとりが個性を伸ばし、幅広い教養と高い専門的知識を系統的に修得して、将来、民間企業などで幅広く活躍できる人材、起業家精神を発揮して事業を創出、継承、発展させることができる人材を養成することを目的とします。

このために、卒業時点で学生が身につけている資質・能力は、以下の5点を目標としています。

### 1) 企業人としての幅広い教養と多様な経営領域に関する知識

ビジネスで活躍できる企業人などとして、幅広い一般教養と多様かつ、高い専門性の経営領域の知識を系統的に修得している。

### 2) 専門的知識・技能の修得と課題発見解決力

より専門性の高い経営領域の知識・技能を修得し、その知識・技能に裏付けられた論理的思考にもとづき、企業や地域経済の抱える課題を発見解決したり、新たな事業を創出、継承、発展させたりする能力を備えている。

### 3) 企業人としての情報を判断し、分析・活用する力

情報通信技術（ICT）を効果的に活用する技術と、データを適切に収集・分析・整理して課題を発見し、解決に活かす能力を備えている。

### 4) 協働のためのコミュニケーション能力

多様な立場・考え方を認めたくえで自らの考えを他者に論理的かつ明確に伝え、周囲を説得できる説明能力と、他者との協働を円滑に行えるコミュニケーション能力を備えている。

### 5) 社会の変化に対応できる自己研鑽力

企業人として高い倫理観を有し、物事に関心を持って誠実にかかわる姿勢を備え、自らのキャリアに関係する知識・スキルなどの修得に積極的かつ継続的に励み、社会の変化に柔軟に対応できるよう、生涯にわたり学び続ける意欲を備えている。

## 2. 「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)

### (1) 教育課程の編成、教育内容

経営学科企業経営専攻における教育課程編成・実施の基本的な考え方として、経営学の各領域について基礎分野から応用分野まで学年進行に合わせて専門科目を配置し、系統的なカリキュラムから希望する進路に合わせて、自由に科目が選択できるように編成します。

#### 1) 経営学の基本的知識から応用的知識まで体系的・段階的に修得します。

経営領域の基本的な知識を経営共通コア科目として配置している「経営学基礎Ⅰ」「商業簿記Ⅰ」「会計学概論」「マーケティング」などの科目を軸として学び、「経営管理論」「経営組織論」「会社法」「財務管理論」などの科目を企業経営コア科目として有機的に配置し、学年進行に合わせて無理なく学ぶことができるように系統的に編成しています。3、4年次には専門知識の深化を図る「専門演習Ⅰ～Ⅳ」を必修とし、希望者は担任教員の指導の下、「卒業研究」論文に取り組みます。

#### 2) 4つの経営領域を設けて、より専門性の高い学びを提供します。

ICT リテラシー・ICT スキルの修得と実際のデータを用いて課題を解決する知識を学ぶビジネス情報領域、地域経済の活性化や起業の方法を学ぶ地域創生領域、社会で役立つ高度な会計・金融知識を学ぶ会計ファイナンス領域、ホスピタリティ業界(ホテル・ブライダル、ツーリズム、フードビジネス、医療事務など)の経営を学ぶホスピタリティ領域を重点的に設定し、学生一人ひとりの将来の職業適性と目標意識も視野に入れた自由、かつ柔軟な科目選択を可能とします。

#### 3) 公的資格の取得を支援します。

公的資格試験合格を活用したキャリア開発意欲の向上を促進する科目として「ライセンスセミナー」「不動産研究」を設け、公的資格試験に挑戦し、合格することで専門知識に加え、職業適性を開発します。公的資格試験として、簿記、ファイナンシャル・プランニング技能士、宅建士、販売士、ビジネス実務法務、ビジネス実務マナー、ITパスポートなどの合格を目標とした指導・支援を行います。

#### 4) キャリア開発に直結する指導をします。

「キャリア演習Ⅰ～Ⅲ」において社会人としての資質向上支援を行い、「インターンシップⅠ・Ⅱ」で実際の就業体験を行い、「キャリア演習Ⅳ」で模擬就活体験を実施し、適性に合ったキャリア開発を支援するとともに、将来のキャリアに必要な専門知識・スキルを認識する機会として、キャリアサポート科目を提供します。

## (2) 教育方法

- 1) 企業経営に関する科目全般の方向性として、従来の講義形式に加えて、学生が ICT を効果的に活用し、学生と教員間、学生と学生間の双方向性ある授業を実施します。
- 2) 学生自らが設定した目標達成のために、能動的に研究・調査・分析・発表・議論する体験型授業を多く設けることによって、積極的かつ継続的にアクティブ・ラーニングを効果的に行います。
- 3) 学生のキャリア開発のために、経営学部独自のキャリアサポート科目を設け、入学時から卒業年次までキャリア教育を継続的に教授します。また、国内でのインターンシップに加え、海外インターンシップを実施し、グローバル社会にも対応できる職業人を養成することに加え、地域連携型授業を通して地域社会で活躍できる人材の育成を推進します。
- 4) 適性に応じたキャリアを支えるために、公的資格（簿記、FP、宅建士、販売士、PC検定、ITパスポート、ビジネス実務法務、ビジネス実務マナー等）の取得を支援する授業をカリキュラムに体系的に配置することにより、初級レベルから上級レベルまで学生が段階的に学修し、無理なく資格取得できる力を養成します。

## (3) 学修成果の評価方法

- 1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。
- 2) 各科目において習熟度を測るために学期末試験を行うとともに、科目の特色に応じて中間試験や小テストを行い、課題を与えて評価します。体験型の科目については、アクティブ・ラーニングの一環として実施するグループワーク、発表・報告等に加え、平素の意欲的な学修姿勢も含めて総合的に評価します。
- 3) 国内外でのインターンシップ科目については、インターンシップ実施企業と連携して、実践可能な到達目標を設定し、企業や教員による評価、さらに学生の自己評価等多面的できめ細やかな評価を行います。
- 4) 資格取得を目標とする科目については、小テスト、中間・学期末試験、平素の受講態度等に加えて、外部評価となる資格取得の成果も評価の対象とします。

### 3. 「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)

経営学科企業経営専攻は、「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような能力・資質、目的意識をもった人物を求めます。

1) 高等学校等の教育課程を幅広く修得しており、大学での学修に必要な基礎知識・学力・技能を有していること。

〔求める要素：知識・技能〕

2) 経営・経済や社会・生活に関する諸問題に関心を持ち、企業・団体等への高い就業意欲や起業・事業継承に向けての意欲があり、そのために資格取得や国内外で実施するインターンシップにも積極的かつ誠実に取り組む気持ちがあること。

〔求める要素：関心・意欲・態度〕

3) 学校行事、クラブ活動、ボランティア活動等を主体的に、かつ他者と協働して幅広く取り組んだ経験があり、そこでの自らの役割と成果を説明できること。

〔求める要素：主体性・多様性・協働性〕

4) 高等学校までのグループ活動等の学びを通じて、社会的課題に関心を持ち、さまざまな視点から総合的かつ論理的に物事を考え、自己の意見を表現できること。

〔求める要素：思考力・判断力・表現力〕